

No.153



中部 教区通信

編集 日本基督教団中部教区
教区通信編集委員会
発行人 加藤 幹夫
発行所 〒461-0009
名古屋市中区久屋町8の6
日本基督教団中部教区事務所
電話 (052) 971-8497
E m a i l ckyo@quartz.ocn.ne.jp
振替口座 00830-7-52037
Homepage <http://uccj-chubu.com>



この町には、わたしの民が大勢いる

使徒言行録 18章1~11節

金城教会 木下喜也

伝道の困難な今こそ、この御言葉をみなさまと深めていきたいと思いました。「この町には、わたしの民が大勢いる」。これは、主なる神の言葉であり、主イエス・キリストの言葉でもあります。教会が建てられているあなたの町には、神の民が大勢いるのだから、恐れず福音を語り伝えるようにと励まされています。

この御言葉は、伝道者パウロがコリントの町にいた時に語られました。コリントの町は、今でも地中海に面する交通の要衝となる港町ですが、当時から人口が多く繁栄した町でした。ここには多くの神殿があり、様々ないわゆる神々が祀られていたのです。

この話は、遠いギリシャの昔話というだけでなく、今のこの国にも共通するところがあると思います。町の規模はそれぞれ異なるでしょうが、世界的に見れば豊かな国と言える日本の中で、多くの人はキリストを知らず、他の神々を祀っている状況です。その中で伝道することは、いかに困難であるかは、みなさまの方がよくわかると思います。

実際に、パウロはユダヤ人の様々な妨害に遭い、不当に訴えられることもこの町で起こりました。しかし、そのような中で、「コリントの多くの人々も、パウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受け」とあるように、教会が生まれるのです。

どうして、伝道が困難なコリントの町に、福音を信じる人が与えられ、教会が生まれるほどになったのでしょうか。そこには、二つの要因がありました。この二つの要因は、今の教会にとっても大切なことです。

第一に、コリントではパウロが一人だけで伝道したのではなく、仲間が与えられました。アキラとプリスキラという最初の教会員となった夫妻、シラスとテモテという同労者、そして、礼拝の場所を提供する人物も与えられます。シラスとテモテは伝道者でしたが、それ以外の人たちは信徒であり、コリントの教会の礎となった人たちです。

伝道は牧師が一人だけではできません。もし、そうであれば、牧師も疲れてしまい、教会が成り立たなくなります。逆に言えば、一人でも福音を聞いて信じる人が与えられれば、教会は建てられ、伝道者は力づけられるのです。そして、二人または三人でも信じる群れにキリストは共にいらしてください、必ず御業をなしてください。

第二に、コリントでは、神の言葉を聴き続けました。これは、困難な時にこそ、教会が求められる姿勢です。

コリントの伝道で困難に遭ったパウロは、ある夜、幻の中で主の言葉を聞きます。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」この御言葉によって、パウロは励まされ、困難に立ち向かう力が与えられました。

「恐れるな」。私たちは、教会の伝道が進展しない理由を、色々と挙げることができます。しかし、一番の根本にあるのは、この「恐れ」かもしれない。困難に遭うと恐れてしまい、福音の言葉を語ることをためらってしまうのです。だからこそ、「この町には、わたしの民が大勢いる」と語られる神の言葉に聞き続ける必要があります。

教区総会を終えて

議長 加藤幹夫

第75回中部教区総会が5月20・21日（火・水）、名古屋中央教会で開催されました。教区総会が開会礼拝によって始まり、共に主をほめたたえ、共に御言葉を聴き、共に聖餐にあずかることができました。能登半島地震被災教会と関連施設とその地域における魂の慰めを祈りました。この総会にあたり、多くのご奉仕に尽力して下さった皆さま、特に竹内款一先生をはじめ名古屋中央教会の皆さまには心から感謝いたします。

今総会において、1日目議事のはじめに准允式執行を決議し、中根一茂教師、ヤング肇子教師、前田尚子教師、3名の准允式を執行しました。中部教区において伝道を開始される3名の教師を覚えてお祈りください。1日目は、過年度報告（常置委員会報告、各部各委員会報告、各地区報告、他）を中心に議事を進め、議員の体力的なことを考えて夕食前に終了しました。2日目の朝、逝去教師追悼礼拝（勇文人教師、菅生昌利教師、加藤久雄教師）が井ノ川勝教師の司式で行われました。3教師とも中部教区において長年、伝道牧会をされた教師でした。また、隠退教師（岡田はるみ教師、片山博喜教師）の感謝会をしました。2名の教師も中部教区において、長年、伝道牧会され、その感謝をお伝えいたしました。逝去された教師、隠退された教師が受け、伝えた神の言葉を、現任教師をはじめ、信徒もしっかりと受け留め、福音を宣べ伝え続けて行きたいと願います。

教団問安使として藤盛勇紀教団副議長、在日大韓基督教会から李珍容中部地方会会長、ミナハサ福音キリスト教会鈴鹿インマヌエル教会からステンリー宣教師、教区内関係学校代表者から一日目の夕方、御挨拶をいただきました。特に、藤盛教団副議長からは、教団総会で可決された「日本基督教団の全体教会としての一体性を確認する件」、出版局経営問題の深刻化についてなどの報告がありました。

議事において、財政問題、災害対応、ハラスメント対応をはじめ、多くの貴重なご意見や要望をいただきました。今後、常置委員会で協議を重ねて行きたいと思っております。以下、主な決議事項をお知らせします。

1. 教区三役選挙 議長 加藤幹夫(阿漕)、副議長 小林 光(熱田)、書記 山田詩郎(名古屋北) を選出

2. 教区常置委員選挙 教職 田口博之(名古屋)、木下喜也(金城)、佐藤誠司(福井神明)、吉澤 永(愛知)、松島保真(小松)、上竹裕子(上野) 以上6名を選出
信徒 村瀬明子(半田)、鈴木卓也(南山)、山本松子(紀伊長島)、宮川美恵子(金沢元町)、西井 淳(富山二番町) 以上5名を選出

3. 宣教実施目標、新年度予算、秋季按手礼式執行を可決

4. 能登半島地震被災教会支援に関する件を以下可決

2024年1月1日能登半島地震によって被災した輪島教会、七尾教会、羽咋教会、魚津教会について、2025年度、中部教区はこの4教会と関係施設の支援・再建を祈りつつ、以下の活動を行う。

(1)中部教区能登半島地震募金を継続する。

(2)能登半島地震被災教会等支援のため、現地委員会を継続し、情報を受け、支援する。

(3)輪島教会、七尾教会、羽咋教会に関して、2025年度教区負担金・助合伝道献金について2/3相当の援助、特別謝儀援助・特別伝道費援助を申請に基づいて実施する。

(4)日本基督教団「2024年能登半島地震被災教会会堂等再建支援委員会」と協力し、被災4教会(輪島、七尾、羽咋、魚津)とその関連施設(羽咋白百合幼稚園、七尾幼稚園)の再建に関しての支援を進める。

(5)日本基督教団「2024年能登半島地震災害窓口」と協力し、ボランティア活動をはじめとする被災地支援を進める。

これからも被災教会と関係施設のためにお祈りください。



挨拶と報告をする輪島教会新藤豪教師

2025～2026年度中部教区三役・常置委員選挙結果 及び各部各委員会委員詮衡結果

〈三役〉

総会議長 加藤幹夫（阿漕）

総会副議長 小林光（熱田）

総会書記 山田詩郎（名古屋北）

〈常置委員〉

田口博之（名古屋）、木下喜也（金城）、佐藤誠司（福井神明）、吉澤 永（愛知）、松島保真（小松）、上竹裕子（上野）、村瀬明子（半田）、鈴木卓也（南山）、山本松子（紀伊長島）、宮川美恵子（金沢元町）、西井 淳（富山二番町）

〈各部〉

伝道部

[長] 辻 順子（鳴海）、川上野ゆり（蘇原）、敦森幹生（名張）、前田真孝（出町）、石井和典（白銀）、山本博之（如鷺）、金 元基（岡崎）

教育部

[長] 有岡史季（敦賀）、内城 恵（羽咋）、白田宣弘（世真留）、吉川光太郎（福野）、小椋実央（瀬戸永泉）、川上 侑（各務原）、嶋田百々子（尾鷲）、渡邊紀久子（御器所）

社会部

[長] 栗原武士（刈谷）、辻 秀治（桑名）、稲田勝之（中京）、釜土達雄（七尾）、佐藤 徹（丸岡）、清水与志雄（田瀬）

教師部

[長] 八束 清（御器所）、吉川 進（松阪）、阿部 啓（豊橋中部）、渡部和使（富山新庄）、新藤 豪（輪島）、高見伊三男（大野）、白砂誠一（飛騨高山）

財務部

[長] 鈴木卓也（南山）、加藤順子（名古屋中央）、大友信一（安城）、田口博之（名古屋）、三野慶仁（四日市）、小寺正子（名古屋北）

宣教研究部

[長] 横山良樹（半田）、小田部正一（シルバーホームまきば）、吉澤 永（愛知）、山田詩郎（名古屋北）、上竹裕子（上野）

人事部

[長] 加藤幹夫（阿漕）、小林 光（熱田）、山田詩郎（名古屋北）

〈常設委員会〉

互助委員会

[長] 佐藤誠司（福井神明）、渡部和使（富山新庄）、松島保真（小松）、江連 実（豊田）、八束 清（御器所）、柳本伸良（華陽）、蜂屋博寿（津）、田口博之（名古屋）

「障がい者と教会」委員会

[長] 柳本秀良（城之橋）、和田芳子（東海）、前田和之

（枇杷島）、田中文宏（名古屋桜山）、水谷恵子（飛騨高山）、本弘禮子（津）

部落差別問題委員会

[長] 西川幸作（中濃）、安達正樹（名古屋新生）、吉川光太郎（福野）、松島保真（小松）、江連 実（豊田）、敦森幹生（名張）

愛知老人コミュニティーセンター委員会

[長] 加藤幹夫（阿漕）、木下喜也（金城）、須田静代（名古屋中央）

〈特設委員会〉

教区史資料蒐集委員会

[長] 山田詩郎（名古屋北）、落合建仁（金城学院）、榮 巖（春日井）、濱田真喜人（久居新生）

幼稚園問題委員会

[長] 小林 光（熱田）、吉川光太郎（福野）、吉澤 永（愛知）、木下喜也（金城）、加藤孔二（金沢長町）、石原ゆかり（名古屋）

教区通信編集委員会

[長] 石田聖実（鈴鹿）、小林 光（熱田）、山田詩郎（名古屋北）、中根一茂（豊明新生）、須田静代（名古屋中央）

在日大韓基督教会との宣教協約推進共同委員会

[長] 加藤幹夫（阿漕）、山田詩郎（名古屋北）、八束清（御器所）、柿沼 薫（名古屋桜山）

〈特別委員会〉

「原理問題」対策委員会

[長] 柳本伸良（華陽）、川上野ゆり（蘇原）、安達正樹（名古屋新生）、佐藤 徹（丸岡）、杉本 誠（西尾）、川上 侑（各務原）

役員研修会実行委員会

[長] 柳本伸良（華陽）、川上 侑（各務原）、川上野ゆり（蘇原）、西川幸作（中濃）

財政検討委員会

[長] 田口博之（名古屋）、山田詩郎（名古屋北）、佐藤誠司（福井神明）、小林 光（熱田）、加藤幹夫（阿漕）

バイブルキャンプ実行委員会

[長] 松島保真（小松）、吉川光太郎（福野）、森野真理（福野）、榮 巖（春日井）

能登半島地震支援現地委員会

[長] 松島保真（小松）、内城 恵（羽咋）、石井和典（白銀）

〈常任委員〉

監査委員会

[長] 村山盛芳（南山）、横山厚志（瀬戸永泉）、齊藤 晃（鳴海）

※ [長] は委員長、___ は信徒



豊明新生教会では伝道活動援助費を用いて、YouTubeライブ配信用のマイクを購入しました。パソコンにもマイク機能はついておりますが、集音や音の調整に不安があり、指向性の切り替えができる感度の良い物を選びました。このマイクを用いて月に2回の名古屋新生教会とのオンライン合同礼拝（YouTubeなので一方通行ですが）を、豊明新生教会の無牧師時代2年間、無事に守ることができました。

オンライン合同礼拝は月の1週は名古屋新生教会から豊明新生教会に向けての配信、もう1週は豊明新生教会から名古屋新生教会への配信という形で行いました。もともと豊明新生教会は名古屋新生教会から分かれてできた教会です。牧師を代務者として派遣している名古屋新生教会の方々が月に1度、牧師不在の主日を受け入れてくださったことに、改めて教会の懐の広さ、あたたかさを感じさせられました。

オンライン合同礼拝では、Wi-Fiの接続が切れ配信が止まる、オルガンと讃美の音がバランスよく聞こえない、など様々な問題・課題が生じましたが、幸い両教会それ



ぞれの教会員に詳しい方がおられ、調整をしながら、最終的には安定してオンライン合同礼拝をもつことができました。

YouTubeライブ配信という一方通行の形ですが、礼拝が終ると毎回、パソコンのカメラを会堂のみなさんに向けて、挨拶を送り合うようにしました。また年に数回役員交流会を行うことで関係を育んできました。その甲斐もあり、中根一茂伝道師を主任教師として迎えた2025年度も第5主日には豊明新生教会と名古屋新生教会の講壇交換を行うことにしています。

2年間、オンライン合同礼拝を続けてみて大切に思われたことは、司式者や牧師が挨拶や祈りの中で、画面の向こうにいる人たちのことを覚えて顔を向けたり言葉に出したり、小さな配慮をもつということです。そうすることで冷たく固く捉えられがちなオンラインの礼拝も随分和らぐような気がします。

前代務者・名古屋新生教会牧師 安達正樹

活かされています 伝道活動援助費



いつも丸岡教会を覚えてお祈りいただきありがとうございます。毎年教区の伝道活動援助費にお支えいただき、春にはイースター祝会、夏にはCSデイキャンプ、秋には子ども祝福式、冬にはクリスマス・キャロリングと、緑幼稚園と一緒にさまざまな行事を企画・実施することができ、心より感謝いたします。

その中で、2024年のクリスマスには、「世界のクリスマス展」を開催することができました。これは、私が神学生時代に所属していた教会の信徒さんから「友人が、長い時間をかけて少しずつ集めてきたたくさんのサンタクロース人形を、お譲りする先を探している」と連絡をいただいたことに始まります。

送られてきたのは、大小さまざまな古いアンティークのサンタクロース人形たちでした。大きなものでは1m近くあるものも。ピアノを弾いたり、メリーゴーランドに乗ったり、歌を歌ったり、おしゃべりをしたり、いろいろな職業に扮するお仕事サンタクロースだったり、珍しくユニークなシュチュエーショ



ンのものもあって、古いものではありませんがどれも持ち主の方が大切にされてきたものであることが一目でわかりました。

そうしてこれらを礼拝堂に展示すると、緑幼稚園の子どもたちが大喜びだったのはもちろんのこと、その父母や祖父母、卒園生、また話を聞いた地域の方々が教会を訪ねてご覧くださいました。3日間限定の展示でしたが、大勢のみなさんが喜んでくださいました。

今年2025年、丸岡教会は創立110周年を迎えました。また長い間、教区の再建教会として歩んできた歴史の中で、2015年の創立100周年を前に教区のお支えを感謝をもって辞退し、自立の道を歩み始めて10年が経ちました。この間も、教区のみなさん、特に福井地区のみなさんに絶えずお祈りいただいておりますことを感謝いたします。

丸岡教会と緑幼稚園が、御心のために用いられますよう、日々祈りを重ねています。

牧師 佐藤 徹

中部教区バイブルキャンプYou中部 報告

2025年3月25日（火）～27日（木）にかけて、第七回中部教区バイブルキャンプ「You中部」が、朴洙美先生（東洋英和女子学院中高部聖書科専任講師）の「これからどう生きる？」とのテーマのもと、大杉みどりの里（石川県小松市）にて開催されました。参加者38名、スタッフ21名に講師を加えた60名でのキャンプとなり、たくさんの参加者が今年も与えられました。開催が7回目。顔馴染みのスタッフ・参加者も増え、「年度末はバイブルキャンプへ」という感覚が根付いてきたように感じます。今回も参加者の半数以上が、以前も参加したことがあるリピーターの人たちでした。学校に部活に趣味にと、多感で時間のない中高生にとって、キャンプのために3日を割くのは困難も多くあります。加えて新しい場所で、普段知らない人と共に過ごすのは勇気もいることです。それでも毎年参加者が備えられます。主の招きに応えるように、集められます。決して立派な信仰の態度ばかりではなく、「聖書が苦手」な子もいます。しかし言葉にできない思いを抱え、

自己と出会い、友達の信仰を知りながら、神様の響きを感じています。真っ直ぐにぶつかりながら、主の招きの中を歩んでいる中高生の姿に、いつも励まされます。

「いつもと違う人といつもと違う場所で、神様のお話を聞くことができます！！」と学生スタッフも太鼓判。2026年度は、3月25日（水）～27日（金）の開催です。新しい地で、新しい仲間と、共に主を讃えるキャンプが今年も備えられますように！ 委員 榮 巖



能登半島地震現地報告

2024年1月1日に発生した能登半島地震から1年7ヶ月が経過しています。被災教会の立場に身を置きながら、中部教区の現地委員として関わってまいりましたこれまでの歩みをご報告させていただきます。

委員会はWeb会議形式のオンラインで行われ、毎回のように加藤幹夫教区議長をはじめ、3役の先生方が出席してくださり、羽咋教会からも長老が陪席しています。

現地委員会において今年度、輪島教会の支援を中心に、七尾教会、羽咋教会、魚津教会、と関連する幼稚園のために祈りと力を合わせてまいりました。輪島教会は1月に会堂が解体されました。続いて8月3日の臨時教会総会において牧師館解体の件が可決され、9月には公費解体が予定されております。そのために6月～7月にかけて、牧師館の片付けや荷物の搬出を現地



6/19 現地委員会の輪島教会片付け作業

委員の働きの中で、新藤先生が仮設住宅へ生活の拠点を移すための清掃や荷物の移動をご奉仕いたしました。

七尾教会は、会堂の修理を終えて園舎や駐車場部分の修復に入るところです。釜土達雄先生が七尾幼稚園、羽

咋白百合幼稚園、ゆりっこ児童クラブの関連施設の責任を持っておられるゆえに、これらの改修工事計画に中心的に携わっておられます。

七尾幼稚園も羽咋白百合幼稚園も園庭工事を含む改修工事なので、大規模な計画となり業者の順番がなかなか回ってこないという厳しい状況があります。羽咋教会は、会堂と牧師館の壁や天井の修理の見積もりを依頼し、今年度中には修繕を完了する予定です。富来伝道所も、礼拝堂の天井や壁、外回りの石のずれなどを施工メーカーに修理していただく予定です。魚津教会は会堂の修繕を終えたところです。

さらに、このような報告には書き記すことができない、被災した教会員の事や町の復興の状況などがあります。傷が癒えない中であって、今こそキリストの復活の命の希望と慰めの福音が必要であります。中部教区の諸教会の祈りとお献げ物に心より感謝すると共に、この復興・再建の計画が、何よりも主を証しする伝道の道のりとなるように願ってやみません。

現地委員会書記 内城 恵

<募金報告（2025年7月31日現在）>

教団「能登半島地震緊急救援募金」「2024年能登半島地震教会等再建支援募金」総額159,184,102円

（内7,319,137円は人道支援指定）

教区「能登半島地震募金」総額90,427,947円

（内5千万円は教団へ送金。上記教団総額に含まれる。）

准允を受けて



赤池教会 ヤング肇子

今年、3月に東京神学大学を卒業し、5月に准允式を受けることが出来、喜びと共に感謝せずにいられません。神学校入学から、一つずつ祈りながら事を進め、准允を受けることを許されたことは、この私でも、ご用に使っていただけるのだと一つの証しとして受け取っても良いのではないかと思います。しかし、まだ聖礼典も行えない

補教師としては、再来年の正教師試験が立ちはだかっている現実にも身を引き締めて、祈りと共に努力を怠らず、毎日の学びに集中して過ごしたいと思っています。

赤池教会の穏やかな長老会、教会員の皆さんとの交わりは平安で喜びを感じます。植えられた赤池教会の地において共に伝道に向けて歩んでいきたいと思えます。

「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても、励みなさい。」（Ⅱテモテ4:2）



出町教会 前田尚子

出町教会担任教師の前田尚子と申します。

2025年5月20日に、加藤幹夫先生司式のもと、准允を受けることができました。

ノンクリスチアンの家庭に生まれ育った私が、教会に導かれ、受洗、そのあとにも様々なつまずきがありました。召命を受け、補教師試験を受験する志を与え

られたときにも、様々な言い訳を連ねて、神学の学びがかなり滞りました。

しかし神様はこのような私が逃げ出しても決してその御手を離されることなく、つまずくたびに様々な助け手をお与えくださいました。准允式と、その前の面接ではまた再び多くの先生方からの励ましをいただき、もうこれ以上逃げることはできないのだ、と心を新たにされました。この思いを忘れることなく御言葉に仕える歩みを進めていきたいと思えます。

豊明新生教会 中根一茂



主の御名を賛美します。

中部教区総会において准允を授かり、豊明新生教会の主任担任教師に任命された中根一茂です。7月に伝道師就任式を執り行われて、正式に伝道師としての歩みを始めることができることを主に心より感謝申し上げます。就任式で与えられた御言葉は、主がパウロに語られた「恐るるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる」（使徒18:9）という御言葉です。この御言葉は私の心に深く響きました。豊明新生教会は厳しい状況にあります。しかし、この試練は悲観へと導くものではなく、むしろ主に信頼する力へと変えられています。

豊明の地で忍耐強く、かつ大胆に福音を語り続けるならば、共にいてくださる主が必ず導いてくださると信じます。今後とも皆様のお祈りに覚えていただければ幸いです。



松阪教会 吉川 進

私が、2015年4月から大台めぐみ教会で牧会に当たった期間中、補教師であった2年半は、地多政枝先生の聖餐応援をいただきました。その際には交換講壇で松阪教会の礼拝説教を担当させていただきました。本年4月から松阪教会に招聘されて懐かしい皆さんのお交わりに新鮮な日々です。

三重地区での10年間に教会を越えたお交わりが数々ありましたので、6月の就任式にご出席の各教会の皆さんとも、知り合い以上の関係であることを感じました。同時に、一教会での教会員と教師の関係構築は、全く新しいものですから、教会の身体としての相互信頼を一日も早く親密なものにすべく、日々祈られています。

そうは言いながらも、やはり宣教の業を通してこそその牧会と、気持ちを新たにしています。改めてよろしく願いいたします。

2ページの教区総会報告にある通り、中根一茂教師、ヤング肇子教師、前田尚子教師の3名が准允を受けられ、それぞれ豊明新生教会主任担任教師、赤池教会主任担任教師、出町教会担任教師となりました。

そのほか東海側では片山博喜教師の隠退に伴い、前田和之教師が豊橋から枇杷島へ、地多政枝教師が松阪から豊橋へ、吉川進教師が大台めぐみから松阪へ。北陸側では富山鹿島町に加藤太朗教師が着任されました。



枇杷島教会 前田和之

4月より枇杷島教会に着任しました前田和之です。前任地は、愛知東地区の豊橋教会です。献身して30年間の牧会生活中、27年間中部教区にお世話になっています。就任式では皆様の励ましの言葉をいただき感謝いたします。「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」(Ⅱコリント

12：9)のみ言葉に励まされて、枇杷島教会での日々を歩ませていただいています。枇杷島教会はラバツ宣教師の働きによって生まれた枇杷島幼稚園から始まった教会です。地域の人々、教会に集う兄弟姉妹の祈りがあります。代々の牧師の働きの中で、私がこの信仰のバトンを引き継いで、将来の人々に渡すことができるか、そのことを考えると荷が重いです。けれども神様の恵みの中で、自分の弱さを覚えつつ、御言葉を伝える喜びに生かされていきたいと思ひます。



豊橋教会 地多政枝

2025年4月より、日本基督教団豊橋教会へ主任担任教師として遣わされました。同年3月までは同教区内の三重地区松阪教会にて用いられておりました。豊橋教会は、1880年に米国のメソジスト派マクレイ宣教師から洗礼を受けた兄弟によって伝道が開始され、教会設立は1885年にまで遡ります。戦争の空襲によって建物はじめ教会記録などが全

て消失してしまい、現在の教会は1950年に建てられたものです。教会の歴史を知ることによって、改めて、伝道の思いを熱くしております。また、伝道の第1歩はその地を愛することから始まると教えてくださった先達教師の言葉にならって、今まさに、この豊橋の地を愛することから始めさせていただいております。「なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。」(Ⅱコリ5：14)



富山鹿島町教会 加藤太朗

4月、まだ少し肌寒さを感じる季節に着任したと思ったのも束の間、気がつけば本格的な夏の暑さを感じる時期に。住む場所や教会が変わると、日々、新しいことの連続です。そんな中でも、変わることをないただ御一方の神様に信頼しながら、牧師としての務めに励み、仕えていきたいと願うものです。

少し時間が経って、「富山の生活には慣れましたか？」と声をかけていただくことが何度かありました。しかし私にとって北陸の地、そして雪国での暮らしは初めてのこと。やはり冬を経験しないことには「慣れた」とはなかなか言えない気がしています。一方で、「そんなに雪が降らない年もありますよ」と聞いてホッとしたり、その一方で「降るときはすごいですよ」と聞いて身構えたり……。今から楽しみです！



“その人は円を描いた
わたしを『しめだす』ために
異端者や反乱者、
軽蔑すべきものをしめだすために
しかし、愛と私は
これに打ち勝つ知恵を持っていた
私たちも円を描いた
その人をも『含めて入れる円』を”
(「Outwit」 エドウィン・マークム)
愛とは、イエス様のことかなと思
いながら、この詩を読みました。こ
の世に來られたイエス様は、ある人
たちを締め出すために引かれた線を
ことごとく困い込んでしまう、大き
な円を描いたので。神の愛：とい
う大きな円で覆われたのです。
○「ファーストという言葉が、独
り歩きしています。人々の関心を得
ています。でもファーストがあるな
ら、セカンドもサードもあるのです。
神が造られたこの世界を、被造物で
ある人間が細かく線を引くことなど
出来ないのです。この詩は、そのこ
とを教えてくださいるように聞こえ
ます。

桜木教会 牧野純

隠退して

隠退とは、社会的活動や仕事から身を引いて静かに暮らすことだという。しかし、隠退して早速、礼拝説教奉仕のご依頼を頂いたことは、まだまだ身を引けないということか。ただ、無牧の教会がある中で、気力の許す限り少しでも伝道の協力をさせて頂くことは感謝であり嬉しいことでもある。“引退”して楽しみにしていたことの一つは、様々な教会の礼拝に、風天の寅さんよろしく気ままに出席するこ

とである。しかし、その楽しみも今は適うことはできない。“引退”と同じくして、病を負ってしまった。これから先、引退生活は闘病生活となるであろう。引退後のプランを思い描いていたものが、しばらくとん挫することになりそうだ。今の私の願いは、御言葉をできる限り語り続けて行くこと、少しでも伝道のお役に立てることである。身を引いて静かに暮らす隠退生活はまだまだである。 片山博喜

菅生昌利教師を偲んで

菅生昌利先生は、三重県伊勢で生まれ、1955年山田教会において受洗。1964年東京神学大学大学院を卒業後、輪島5年、阿漕5年、尾陽13年、茨城東5年、富山二番町7年、と牧会され、2001年に隠退、2024年11月26日に召天されました。阿漕教会では台風被害による会堂大修理、尾陽教会では土地購入と仮会堂建設、礼拝堂・牧師館建築直前にしての辞任など、多くの課題を背負われた様子が記録に残っています。教会における伝道牧会の他に、三重刑務所での教誨師の働きがありました。臨済宗の教誨師で三重県教誨師会会長を長くされた僧侶の方が、「他宗教のみなさんは付き合いが悪かったが、菅生さんとは深い交わりをもって楽しかった」と、折に触れて話されていたことを思い出します。他宗教の方との交わりを大切にされた先生の意外な一面を知ることができました。

阿漕教会 加藤幹夫

加藤久雄教師を偲んで



敬愛する加藤久雄先生は1925年4月に名古屋でお生まれになり、2024年12月のクリスマス主日に99歳で天に召されました。戦時中は陸軍士官学校航空士官として単座戦闘機パイロットの訓練を受け、兵庫県加古川飛行場で敗戦を迎え、名古屋に復員されました。1947年のイースター主日に熱田教会の高橋秋蔵牧師より洗礼を受け、献身の志が与えられ、1951年に東京神学大学に入学、卒業後1956年から35年間は熱田教会(附属堅磐信誠幼稚園園長)、1991年から19年間、84歳まで田原吉胡伝道所で伝道、牧会に尽くされました。中部教区総会議長を2度務められ、教区内諸教会の代務者も数多く務められました。加藤久雄先生は愚痴を言わない、人の悪口を言わない、相手の良い点を見る伝道者、真の牧会者でした。

熱田教会 小林 光

【常置委員会報告】

2月以降の常置委員会より主な事柄を以下の4点、ご報告します。

◇19教会・伝道所で教師の異動があり、2025年度の歩みをスタートされています。新しく着任された教師については6～7面をご覧ください。また、教区内の102教会・伝道所のうち代務者の体制は15教会・伝道所です。どうぞ、お祈りにお覚えください。

◇全国から中部教区に振り込まれた募金のうち、5千万円を教団「2024年能登半島地震被災教会会堂等再建支援募金」へ送金しました。能登半島地震の被災教会について、また募金額の報告については5面をご覧ください、被災された諸教会や関係施設、地域を覚えて引き続きお祈りください。

※教団での募金は、被災教会の「会堂等再建」、被災地域の「ボランティア活動をはじめとする被災地支援」に用いられます。教区での募金は、教団と連携して「会堂等再建」に用いられる他、被災教会の「2025年度教区負担金・助合伝道献金について2/3相当の援助、特別謝儀援助・特別伝道費援助」に用いられますので、教区内の諸教会はできるだけ中部教区へ献げてくださると幸いです。

◇5月に行われた第75回中部教区総会にて3名が准允を受けられ、教団の補教師となりました。6面に紹介があります。ご覧ください。また、今年度の教団秋季教師検定

試験に向けて、教区内の1名の補教師が正教師試験受験を志願され、1名の信徒が補教師試験受験を志願されました。常置委員会にて両名と面接を行い、教区推薦が承認されました。お祈りにお覚えください。

◇常置委員会より宣教研究部へ「〈1〉教区の財政に関して」と、「〈2〉ハラスメントに関して」の2点、課題依頼をしました。〈1〉教区財政の現状と今後10年の負担金収入を予測し、どの程度の財政運営となるのか具体的な数字を出し、教区の機構改定も視野に入れつつ打開策について検討するように依頼しました。〈2〉教会特有のハラスメントに関して情報を収集し、予防・抑制のための文書を作成するよう依頼しました。

【教区よりお知らせ】

◇お見舞い ご快復をお祈りします。

竹内貴子(名古屋中央教会)、吉澤 永(愛知教会)

◇第76回中部教区総会は2026年5月19日(火)、20日(水)に名古屋中央教会で行われます。

◇2025年度から教区事務所の開所日は毎週火曜、木曜の午前10時から午後4時です。教区事務所にお越しの際は、必ず予めお電話ください(TEL 052-971-8497)。

◇「教区一覧」訂正

7ページ 部落差別問題委員会

誤:(長)安達正樹 →正:(長)西川幸作

21ページ 中川ぶどうの木伝道所 TEL 052-526-3356